

有吉氏自筆の年賀状

3

4115

かろう

沙尾

けいい

形象

あなたが頼りで書いている「有田川」

本年も何とぞよろし

五九

「有吉佐和子 「有田川」 \* 為書本 (有田市図書館蔵)

## 会期/10月1日 (土) ~特別展インフォメーション~ 11 月 27 日

開館時間/午前9時30分( (入館は午後4時30分まで) 午 -後5時  $\widehat{\mathbb{H}}$ 

**※休館日**/火曜日 場所/郷土資料館(文化福祉センタ

### ■記念講演

「有田川とともに歩んだ人々」 月 15 日 文化協会副会長 (土) 午後1時30分 成川満氏

10月22日(土)午後1時30分 「小説「有田川」の世界」

「小説「有田川」にみえる神社仏閣」11月19日(土)午後1時30分~ 郷土資料館館長 寺西貞弘氏

郷土資料館学芸員 木谷智史氏

岡徳楼にて」との為書がある 昭和39年5月29日

伝わってきますね。 解けたようでした。写真からもそれが 取材はそこで行われました。私の家はみかん畑に囲まれていて、 吉先生がとても気さくで、 母は初め緊張した様子でしたが、 すぐに打ち

7

にお話を伺うことができました。

当時の様子を知るやす子さん

さんで、

やす子さんといいます。

立つ当時8歳の女の子は、この家の娘

のみ込みのはやさに、やっぱりみかんの片手採りをされたとい 生は一瞬考えただけですぐに理解し、 かんを片手で採る」と聞いて、 てみかんを採ってもらいました。 なんやな、 取材では、先生に実際にはさみを持っ と後々家族で話 して

やっぱり賢い方 有吉先 いまし います。 み

有吉氏(右)とやす子さんの母(左)

織を同じ布で仕立てたもの)をお召し 先生は黄八丈のおついこ(着物と羽

友が有田市に詳しく、取材は級友の義和歌山高等女学校に通っていた頃の級田市を訪れていました。有吉氏が県立田市を訪れていました。有吉氏が県立昭和35年11月25日、有吉佐和子氏は

当時取材に来られた

有吉佐和子氏

庭で遊んでいたのを覚えています

有吉先生が来られたとき、

私は家の

先生に初めてお会い

したとき、田舎と

兄

(瀧川氏) のみかん畑で行われまし

ているのが有吉氏。その左隣に笑顔でです。みかんかごを持って中央に立ったの写真は瀧川家での取材時のもの

象でしたね。 当時としては、

になり、身長は160センチくらいで

背が高いなぁという印

先生は、私が初めて会うまちの人でした。 た。普段会うのは農家の人ばかり。有吉 はちがう、まちの方やな、という印象でし

です。先生は味付けをメモされたりしうなどを煮込んだ五目煮のような料理 食べるもので、 「じゃじゃ豆」をお出ししました。こ家の中へ入ってもらいました。そこで れは我が家ではお祭りの時やお正月に いま みかん畑での取材の後は、 した。 にんじんや大根、 寒いので そこで ごぼ

われた、と父がよく話していましたね。所さんに「これ自分のことやろ」と言 その方をモデルにしたと思われる 有吉先生に話したそうです。 父が、近所のおもしろい人のことを 小説に登場していて、 あとからご近 そしたら

いう印象が今でも残っています。めてくださるなど、やさしい方だなと先生は常に笑顔で、帰り際、握手を求 さり、 姉弟に「ここへおいで」と言ってくだ りました。その時、 取材のあと、 先生の隣で写真を撮りました。 みんなで集合写真を撮 有吉先生が私たち

ご覧ください。

です。ぜひ会場に足を運んでい

・ただき、

特別展は豆太子像を見る貴重な機会

# 千代に寄りそう お太子さん

在しており、普段は聖徳太子孝養像の何度も登場します。この豆太子像は実千代の心のよりどころとして、作中に 背面に収納されています。 浄念寺の豆太子像は、懸命に生きる

<sup>うえ た</sup> 上田やす子さん

太子さんやろと思い、いつまで見て「千代もまたなんという可愛らしいお も見あきなかった」

しちがうところが・・・?に表現されているのですが、 小説に登場する豆太子像は次のよう 実物は少

一漆黒の髪、 につけなしたように見えるのである。」まるで、蜜柑の実と色をそのまま身 白い顔。 その朱の襟元と緑の衣が ちんまりとした目鼻に



豆太子像 (高さ2.7cm)

③ ARIDA 2016.10 ARIDA 2016.10 ②